

地材地建の木造住宅アピール

業界、行政が連携

住まいと建築展

鹿児島県の木材・建築業界、行政などが主催する「住まいと建築

展」が10月23～25の3日間、鹿児島市内で開催された。同県では県内で育成、製造された木材などの建材を使って県内の工務店などが木造住宅を建設する取り組みを「地材地建」と定義。各企業・団体からの展示、シンポジウムなどを行い、一般県民、建築関連業界向けに県産材をはじめとする木材活用をPRした。

展示では、山佐木材（肝属郡）が杉CL

マスを熱利用普及促進協議会は、チップ、ペレ

第25回住まいのリフォ

ームコンクールなどの入賞者表彰式も行われた。技術講演では、山佐木材の塩崎征男常務が杉CLTの今後の実際の活用場面を紹介。在来軸組住宅では告示強度が出れば床版や屋根が断面算定で可能になり、非耐力壁、間仕切り壁は計算不要で使える。2×4は次回の緑本改定時に床利用が記載される予定。床、壁利用で施工性向上、パルコニーなどのとび出し長さを長く、また2方向とび出しも可能になる。

共同住宅は軸組系で許容応力度計算による壁、床、屋根、間仕切り、壁式はCLT工法の設計法が有利で、工期短縮につながるため大手デベロッパが木造アパートへの導入を検討している。2015～16年度にかけては基準強度、設計法の告示が出され、実際の建築物での使用が広がっていくと予想される。

屋外会場では大工、建具、畳、造園、木材業界が連携し、一般向けの各種イベントを行った。25日には第51回県内高等学校建築系生徒による建築設計競技、かごしま木造住宅コンテスト2015、第25回住まいのリフォ



シンポジウムでは有村吉孝鹿児島県優良住宅協会会長、宮崎俊輔鹿児島県木材青年会会長らが情報発信した

TT、さつまファイナウツド（霧島市）は杉2×4用材を紹介。ビルダーからは、住まいず（同）が「自分の山の木で家をつくる」取り組みを、三和建設（鹿児島市）はリフォーム向けの3、4ミ厚フロアリング「そっくりさん」（日本管理センター）をPRした。

鹿児島県木質バイオマスを熱利用普及促進協議会は、チップ、ペレ

第25回住まいのリフォ

2015年(平成27年)
11月7日(土)
日刊木材新聞